

TOPICS

D&I (ダイバーシティ&インクルージョン) 推進宣言

香川大学は、「世界水準の教育研究活動により、創造的で人間性豊かな専門職業人・研究者を養成し、地域社会をリードするとともに共生社会の実現に貢献する。」という理念のもと、これまで多くの人材を輩出し、地域のニーズに応じてきました

少子高齢化、情報化、グローバル化など、社会環境の大きな変化に対応し、共生社会の実現に一層の貢献をしていくためには、多様性を尊重し、認め受け入れる「D&I (ダイバーシティ&インクルージョン)」の推進が必要

です。また大学経営にとっても、「様々な相違を個性として尊重し、その多様な人材を活かす取り組み」が不可欠であり、第4期中期目標・中期計画における最重要課題の一つと認識しています。

このため、令和3年10月「D&I 推進の基本方針」を策定し、これに基づいて「すべての構成員を支援する全学体制の整備」や「共生社会の実現に向けて地域と連携した持続可能な大学経営の推進」等の取組を行い、D&I の推進によって、構成員一人ひとりの多様な



個性や価値観、考え方を等しく尊重し、大学を活性化してまいります。

善通寺市立新図書館等の利用促進に向けた政策立案プロジェクト成果報告会

香川大学と善通寺市は平成24年度に包括的連携協定を締結し、教育・研究の推進及び地域の活性化に取り組んできました。今回、令和4年に開館が予定されている善通寺市立新図書館及び善通寺市庁舎敷地内公共施設の利用促進に向けたプロジェクトに、香川大学学生と丸善雄松堂株式会社が共同で取り組み、政策提言をまとめました。

本プロジェクトは、香川大学で地域づくりや地域の課題解決を実践する授業として開講している「瀬戸内地域活性化プロジェクト」、

「地域インターンシップ」、及び都市圏の大学と実施している「大学連携推進事業」において取り組んだものです。特に「大学連携推進事業」では、東京圏の学生（芝浦工業大学・津田塾大学）も交えたチームが、サービスデザイン思考によるアイデアを考察しました。

当日は、森善通寺市教育長の開会挨拶、神田特命講師による事業説明のあと、香川大学学生チームとオンラインで参加した東京圏学生との合同チームによる提案が行われました。報告会では、青空図書やデザインアートを通



旧善通寺銀行社で開催された成果報告会 10/1

じたコミュニティの結成等、様々な提案がなされ、参加者からは多数の質疑応答がありました。

第15回キッズデザイン賞で、少子化対策担当大臣賞を受賞

香川大学の教育学部、創造工学部、防犯パトロール隊による、簡単な操作で地域安全マップを作成することができる防犯ウォーキングアプリ「歩いてミイマイ」を活用した地域安全マップ作成活動が、第15回キッズデザイン賞で内閣総理大臣賞に次ぐ少子化対策担当大臣賞を受賞しました。

キッズデザイン賞は、多様なステークホルダーとともに子どもの未来が持続的で明るいものであるように、「子どもたちが安全に、そして安心して暮らす」「子どもたちが感性や創造性豊かに育つ」「子どもを産み育てやすい社会をつくる」という目的を満たす、製

品・サービス・空間・活動・研究の中から、子どもや子育てに関わる社会課題解決に取り組む優れた作品を顕彰するものです。

受賞理由：少子化対策のテーマのひとつである子どもの安全・安心な環境づくりのなかでも、登下校時の安全確保は昨今、特に重要視されている。この防犯教育活動は、事前学習により暗渠や見通しの悪い場所など犯罪の起きやすい場所を学んだ上で、児童たち自らが街の中の危険な場所を見つけ、楽しみながら情報を入力する過程で防犯意識を高められることはもちろん、そこで得られた情報を公共知としてシェアできる仕組みが優れている。



9/29に東京で開催された表彰式にはオンラインで参加

導入や運用の負担も少なく、他の地域にも展開可能なフォーマットである。

(引用：キッズデザイン協議会HP、プレスリリースより)



KADAIGEST 10 2021



大外刈

背負投

香川大学 柔道部

柔道部は現在部員13人で活動しています。決して多くはありませんが、日々懸命に練習に取り組み、香川県下の大会や中四国の大会を中心に年間5つほどの大会に出場しています。柔道部の目標は大会で入賞することですが、柔道に対するモチベーションは部員それぞれで違います。柔道が強くなりたい人、単純に柔道が好きで活動をしている人、体を動かすことを目的として活動している人など、さまざまです。現在はコロナウイルスの影響で十分な活動ができておらず、大会も2年近く出場できていませんが、部活動が再開して大会に出場できた際には、今まで休んでいた分、全力で試合に臨みたいと思います。

また、私個人としては四国国立大学学生柔道大会団体戦で優勝することを目標にしています。2年前にその大会で準優勝しましたが、優勝したチームには大差をつけられ負けてしまいました。その屈辱を2年ぶりに果たすべく、11月の大会に向けて自分自身を律し、チームを鼓舞できるようなキャプテンとして頑張っています。最後に、東京オリンピックにおいて柔道競技が躍動する様子を見て、興味を持った方は多いのではないかと思います。礼儀作法や感謝の心を養えることが柔道の強みであり、魅力であると考えます。興味がある方は、ぜひ柔道部にお越しください。

活動場所・幸町キャンパス柔道場
活動時間・火、木 (18:00-20:00)
土、日 (9:30-11:30)
部員数 ・13人
Twitter ・@kagawa_uni_judo
連絡先 ・twitterのDMにて対応



サークル歴3年
経済学部3年
山本京平

VOICE 産学連携プロジェクト「せとうちプロジェクト 2020」経済学部学生が企画した旅行プランが最優秀賞で商品化決定



最終発表後的一幕 経済学部渡邊ゼミメンバーとともに 発表はコロナ禍のためオンラインで実施@香大

産学連携プロジェクト「せとうちプロジェクト 2020」は、(株)日本旅行が開催するマーケティングを学ぶ学生に向けた旅行プランの企画プロモーション案を競うコンテストです。瀬戸内エリアの地域資源を活かした観光誘致による地域活性化を目的に行われています。今回は岡山大学と香川大学から計4チームが参加し、約10か月をかけてそれぞれの旅行プランを企画・提案し、最優秀プランは商品化が検討されるというものでした。経済学部の渡邊ゼミからは2チームが参加しました。

私たちのチームは20代~30代の女性をメインターゲットとした「島×新エリア よくばり女子へ贈る香川旅!」という小豆島と仏生山エリアを掛け合わせたプランを提案。結果、見事、商品化されることとなりました。ですが、それまでのプロセスは試行錯誤の連続でした。コロナ禍で計画通りにフィールドワークへ行けなかったり、プランのカギとなるコンセプトがなかなか決まらなかったりと、活動当初

は大変なことが多くありました。そのような中でチームリーダーとして、メンバーそれぞれが得意とする分野で力を発揮できるように考えました。例えば、アンケート調査やインタビュー調査等のデータ処理や、パンフレットの作成、プレゼンの発表など、それぞれの得意分野で活躍できるように役割を分担。そうすることで活動にメリハリができるとともに、メンバーの結束力も自然と高まっていきました。

マーケティング的手法を用いてターゲットのニーズに合った観光商品を作成するためにマーケティングについてもよく勉強しました。その中で、今回のプロジェクトのエリアを提案することにしたのですが、それは大きな挑戦でもありました。まだまだ観光商品として扱われていないエリアであったため、現地調査に何度も行き観光資源を探しました。また検証的調査として私たちが想定した

ターゲットに本当にこのプランへのニーズがあるのかアンケート調査も行うなど、常にマーケティング的視点を意識しながら取り組みました。最優秀プランに選ばれたときは、驚きとともにとても嬉しく、思わずメンバーと記念写真を撮りました。この商品プランで、より多くの人に香川に来てもらい、その良さを知ってもらえたらと思っています。そしてそれが結果的に地域活性化につながればと祈っています。

今回このプロジェクトに参加し、観光による地域活性化というテーマと、マーケティング的手法を用いた商品開発という二つのテーマに真剣に取り組んだことで自身の成長につながったと思います。そして何よりも、一緒に活動してきたゼミメンバーや先生との時間、そして経験は、何事にも代えられない貴重なものとなりました。

経済学部 4年 鴻上しおり Kokami Shiori



旅行プランで提案した小豆島でパンフレット用に撮影



新しい提案エリアの仏生山 現地調査で何度も訪れた



小豆島でのフィールドワーク



ゼミ活動
マーケティング分析中



商品化されたプランのパンフレット
●日本旅行 赤い風船 関西発
「JRで行く 小豆島 オリーブの楽園」に掲載中



今回、チームリーダーを務めた鴻上です 経済学科 観光・地域振興コースで学んでいます



商品化決定直後に
プロジェクトメンバーで撮影